

## 花穂の開花時期で判断する加温「シャインマスカット」の 果実品質低下の回避技術

ブドウ「シャインマスカット」の加温栽培では、同一樹内での開花期のばらつきが大きく、ホルモン処理などの栽培管理が複雑になるだけでなく、果実品質が安定しにくくなります。そこで、岡山県農林総合センター農業研究所では開花期の早晚が結実や果実品質などに及ぼす影響を明らかにしたので紹介します。

### ☆技術の概要

1. 開花時期は標準的な花穂に対して、開花が早い花穂は果粒軟化日が3日早く、遅い花穂は4日遅くなります。また満開時の花穂長及び結実率は、開花が遅い花穂は開花が早い花穂及び標準的な花穂と比べてやや短く、低い傾向にあります。(表1)。
2. 収穫時の糖度や酸含量には、開花時期の早晚による影響は小さいが、開花が遅い花穂の果房重及び果粒重は開花が早い花穂及び標準的な花穂に比べて小さく、かすり症の発生が多くなることが明らかになりました(表2)。
3. 以上のことから、安定した結実や障害の発生が少なく、果粒肥大が良い果実を生産するためには開花時期の遅い花穂の利用を避けることが推奨されます。

表1 開花時期の早晚が生育時期、花穂長及び結実率に及ぼす影響

区 <sup>2</sup>	満開日		果粒軟化日		花穂長 (cm)	結実率 (%)
	(月/日)	(差)	(月/日)	(差)		
早期開花	3/15 A <sup>7</sup>	(-5)	5/2 A	(-3)	21.8 n. s.	96.5 B
標準開花	3/20 B	(0)	5/5 B	(0)	21.5	94.9 AB
遅延開花	3/24 C	(+4)	5/9 C	(+4)	20.0	89.0 A

<sup>2</sup> 80%開花を満開とし、早期開花：3/14～16、標準開花：3/20～21、遅延開花：3/24～26に区分

<sup>7</sup> Tukeyの多重比較検定により、異英大文字間に1%水準で有意差あり、n. s. は5%水準で有意差なし(結実率はA-sin変換後)

表2 開花時期の早晚が収穫時の果実品質に及ぼす影響

区	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸含量 (g/100ml)	かすり症 <sup>2</sup>	
					程度	程度3の発生率(%)
早期開花	784 b <sup>7</sup>	19.7 B	16.1 n. s.	0.31	1.3	0.0
標準開花	692 b	18.6 B	16.5	0.31	1.1	0.0
遅延開花	558 a	14.5 A	16.6	0.32	2.1	45.5

<sup>2</sup> 0：無、1：3粒以下の発生で軽微、2：半数未満の果粒に発生、3：半数以上の果粒に発生し、症状も重く商品性が劣る

<sup>7</sup> Tukeyの多重比較検定により、表中の異英大文字間には1%水準、異英小文字間には5%水準で有意差あり、n. s. は5%水準で有意差なし

### ☆活用面での留意点

1. 本試験は、12月下旬から保温し、1月下旬～6月中旬まで17°Cで加温しています。
2. 詳細については岡山県農林水産総合センター農業研究所果樹研究室(086-955-0276)にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 大崎 秀樹)